

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	北海道大学	整理番号	1-1-050
応募テーマ	主として総合的取組に関するテーマ		
取組名称	国際獣医学教育協力推進プログラム —アジア・アフリカ諸国を視野において—		
申請単位	大学院研究科単位		
申請担当者	前出 吉光		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組の目的は、アジア・アフリカ諸国の獣医系大学との教育研究交流を通じて、家畜衛生の専門家として将来の我が国を担う大学院学生に海外の家畜疾病の実態を現地で体験学習させるとともに、併せて我が国の獣医学の先端的知識技術を当該国に提供することによりアジア・アフリカ諸国の獣医学教育向上を目指すことである。その背景にはアジア・アフリカ地域で多発する家畜伝染病から我が国を守るためには、海外伝染病に関する獣医学教育を強化する一方、それら地域の獣医学レベルの向上による伝染病防止が必要との認識がある。本取組では、当研究科との長い交流実績のあるアフリカ・ザンビア大学獣医学部およびソウル大学獣医学部に、学生と教員を一定期間派遣し、学生に対する現地教育を実施するとともに、相手大学に対して獣医学教育支援を行う。将来展望として、この取組を北海道大学全体の取組に拡大し、教育研究協力を通じて特に開発途上国の発展に貢献していきたい。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、北海道大学大学院獣医学研究科の理念である「社会の要請に応えてわが国のみならず世界的にも広く活躍できる、高度の獣医学的知識と技術を備えた人材養成」を目指して、過去約 13 年間にわたってザンビア共和国や韓国などのアジア・アフリカ諸国への支援および学術交流を行ってきた実績をもとに、①大学院学生に対する現地教育の実施と、②アジア・アフリカ諸国の獣医学向上のための教育支援を行おうとする、組織的取組です。</p> <p>現在、アジア・アフリカ諸国においては感染症を中心とした獣医学の知識・技術が真に求められており、同時にわが国の獣医師は海外伝染病についての知識が乏しいという現状を考慮すると、大学院学生の現地教育の実施とアジア・アフリカ諸国に対する教育支援は、社会の要請に応える優れた取組であると認められます。とくに、これまでのザンビア共和国への支援実績等は、今後の取組の成果を大いに期待させるものと言えます。他の大学の参考になり得る優れたプログラムであると認められます。</p> <p>この取組には、プログラムの影響力が少数学生にとどまるおそれがあるという課題も認められますが、この課題を克服するためにとくに財務面での基盤の確立をすすめ、計画の実現と発展に努められるよう期待します。</p>			